

VI 用語集

VI 用語集（50音順）

AI Cube（アイキューブ）

愛知県国民健康保険団体連合会が独自に開発した外付けシステムである。医療分析システムとして、ポータルサイトを構築し、KDBシステムでは出力されない帳票を提供する。

ICT（アイシーティー）

情報処理、通信に関する技術の総称。「Information and Communication Technology」の略語で日本では「情報通信技術」と訳されている。

愛知県国保連合会支援・評価委員会

平成26年度より、保険者等によるデータヘルスに関する取り組みを支援する体制に構築するべく、国保・後期高齢者ヘルスサポート事業が、全国47都道府県の国民健康保険団体連合会（以下「国保連合会」という）で実施されることになった。

国保・後期高齢者ヘルスサポート事業では、全国の国民健康保険の保険者・後期高齢者医療広域連合が、被保険者の疾病予防、重症化予防、健康増進を目標とする事業を展開するにあたり、各都道府県の国保連合会に、外部の有識者等で構成された委員会を設置し、保険者等の取り組みを支援・評価することとしている。

愛知県後期高齢者医療広域連合

愛知県後期高齢者医療広域連合は、各都道府県ごとに全市町村が加入する後期高齢者医療広域連合（特別地方公共団体）が運営し、保険料の決定、医療の給付等を行う。また、市町村では保険料徴収と窓口事務を行い、相互の協力・連携によって後期高齢者医療事務を行う。

愛知県国民健康保険団体連合会

愛知県国民健康保険団体連合会は、市町村国保や他の国保組合（医師国保組合など）が共同して国保事業を運営するために設置された組織のことで、国民健康保険法に基づく公法人である。（略して「国保連」という。）

各保険者の事務処理を共同で行ったり、医療費などの審査や支払い事務などを行う。

アウトカム指標

事業の目的や目標の達成度、また成果の評価のこと。検査値や医療費など。

アウトプット指標

目的・目標の達成のために行われる事業量の評価のこと。実施回数、人数など。

悪性新生物

がん・肉腫のこと。細胞が何らかの原因で変異して増殖を続け、周囲の正常な細胞を破壊する腫瘍のこと。

アルブミン

血液中のたんぱく質の一種で、血漿（けっしょう）総たんぱく質の6割を占め、栄養・代謝物質の運搬、浸透圧の維持などの働きを行う。高齢者の栄養状態を評価するうえで低栄養に陥っていないかどうかを調べる指標となる。

eGFR（イージー - エフエル）

推算糸球体ろ過量（estimated Glomerular Filtration Rateの略）のことである。血清クレアチニン値と年齢・性別から計算式を用いて、腎臓の働きを示す推定値である。

健康な人では、eGFRは100ml/分/1.73m²前後である。60ml/分/1.73m²未満が持続していれば、腎機能の低下は明らかであり、末期腎不全・透析の段階では、eGFRは15ml/分/1.73m²未満に低下する。

e-Stat（イーstatt）

日本の政府統計に関する情報ワンストップサービスを実現することを目指した政府統計ポータルサイトである。

これまで各府省等が独自に運用するWebサイトに散在していた統計関係情報を本サイトに集約、社会の情報基盤たる統計結果を誰でも利用しやすいかたちで提供することを目指し、各府省等が登録した統計表ファイル、統計データ、公表予定、新着情報、調査票項目情報、統計分類等の各種統計関係情報を提供する。

医療受診勧奨

生活習慣病が重症化する危険性が高い人（受診勧奨判定値以上）に医師の診療を受けるよう支援し、薬物治療の早期開始に繋げること。

医療費適正化

国民皆保険を堅持し続けていくため、国民の生活の質の維持及び向上を確保しつつ、今後医療費が過度に増大しないようにしていくとともに、良質かつ適切な医療を効率的に提供する体制の確保を図ること。

医療費の伸びが過大とならないよう、糖尿病等の患者・予備群の減少、平均在院日数の短縮を図るなど、計画的な医療費適正化対策を推進する。

う蝕

一般には虫歯と呼ばれる。口腔内の細菌であるブラークが出す酸によって、歯質がとがされ、欠損する状態をいう。歯周病に並び、歯科の二大疾患と数えられている。エナメル質にとどまる虫歯の状態であれば、自覚症状で発見することは難しいが、さらに虫歯の状況を放置しておくと、病状が進行し、痛みを自覚できるような重大な症状になることがある。虫歯が神経まで進行すると、患部で炎症を起こし、ひどい痛みを伴うことになる。

VI 用語集（50音順）

HDLコレステロール（イフヂーイーエルコレステロール）

善玉コレステロールのことで、血管の壁についている余分な脂質であるコレステロールを回収し、肝臓に送る働きがあり、動脈硬化を予防する。

HbA1c（イフビィーイーワンシー又はヘムグロビンイーワンシー）

赤血球の中で体内に酸素を運ぶ役目のヘモグロビンと、血液中のブドウ糖が結合したものである。糖化ヘモグロビンともいい、血糖値が高いほどグリコヘモグロビンが形成されやすくなるので、糖尿病の患者では血液中に顕著な増加がみられる。

血糖値は常に変化しているが、HbA1cは濃度が安定している。ヘモグロビンの寿命は約4ヶ月であるため、HbA1cの値を調べれば、過去1～2ヶ月の血糖の平均的な状態を知ることができる。平成25年度から国際基準であるNGSP値を用いることとなった。

LDLコレステロール（エルディイーエルコレステロール）

悪玉コレステロールのことで、肝臓でつくられたコレステロールを各臓器に運ぶ働きをしている低比重リポたんぱくのことである。細胞内に取り込まれなかった余剰なコレステロールを血管内に放置し、動脈硬化を引き起こす原因となる。

拡張期血圧

心臓が拡張したときの血圧。全身を循環する血液が肺静脈から心臓へ戻った状態で、血圧が最も低くなるため、最低血圧とも呼ばれる。血圧値は血管の硬さ（血管抵抗）と血液量（心拍出量）によって決まる。血液の粘度が高くなったり、血管が硬化したりすると、血液が流れにくくなり、血管壁にかかる圧力が高くなる。

QOL（キューオーエル）

Quality of Lifeの略称。治療や療養生活を送る患者の肉体的、精神的、社会的、経済的、すべてを含めた生活の質を意味している。病気による症状や治療の副作用などによって、患者は治療前と同じようには生活できなくなることがある。QOLは、このような変化の中で患者が自分らしく納得のいく生活の質の維持を目指すという考え方である。治療法を選ぶときには、治療効果だけでなくQOLを保てるかどうかを考慮していくことも大切である。

虚血性心疾患

心臓の筋肉（心筋という）へ血液を送る冠動脈の血流が悪くなって、心筋が酸素不足・栄養不足に陥るもの。虚血性心疾患の代表的な病気には狭心症、心筋梗塞がある。

筋骨格系及び結合組織の疾患

代表的な疾患として脊髄障害（脊髄症を含む）、炎症性多発性関節障害、関節症がある。

くも膜下出血

脳を覆う3層の膜の隙間である”くも膜下腔”に出血が生じるもの。

KDB（ケーディービー）

国保データベースシステムのこと。このシステムは、国保中央会が開発し、全国で利用されているシステムである。特徴として、同規模保険者等の比較ができ、特定健診情報に加えレセプトをみることができる。

KDBシステム定義の生活習慣病10疾病

糖尿病、高血圧症、脂質異常症、高尿酸血症、脂肪肝、動脈硬化症、脳出血、脳梗塞、狭心症、心筋梗塞

血清クレアチニン

筋肉運動のエネルギーとして代謝される「クレアチン」の代謝後に残る老廃物のこと。血清クレアチニン検査は腎臓のろ過機能をチェックする。

健康格差

人種や民族、社会経済的地位による健康と医療の質の格差。

健康かるて

半田市が住民の健康管理のために使用しているシステムのこと。国保特定健診、住民健診、がん検診、乳幼児健診等のデータ及び母子手帳、保健に関する各種相談等の個人情報を集約し、保健事業に活用している。

健康はんだ21計画

平成24年7月に「健康寿命の延伸」と「健康格差の縮小」を基本的な方向とした「第2次健康日本21計画」の市町村計画。第2次健康はんだ21計画は、平成26年度から令和6年度の11年間を計画期間とし、「健康日本21計画（第2次）」や「健康日本21あいち新計画」を踏まえ、「健康で明るく ころ豊かなまち はんだ」を基本理念として、総合的な健康づくり施策を推進している。

原疾患

おおもとの病気のこと。

後期高齢者

75歳以上の高齢者をさす。75歳以上を「後期高齢者」、65歳から74歳までを「前期高齢者」と区別する。75歳以上になると複数の疾病を発症しやすく、入院比率や長期療養比率が高まり、自立した生活を送ることが難しくなるなどの特徴がある。

VI 用語集（50音順）

高血圧性疾患

レセプトでは「心臓病」の表記。代表的な疾患として高血圧症がある。

後期高齢者医療制度

平成20年4月1日から始まった75歳以上の方及び一定の障がいがあり65歳以上の方を対象とした、従来の医療保険制度から独立した制度のこと。

行動変容

人が行動を変える場合は「無関心期」→「関心期」→「準備期」→「実行期」→「維持期」の5つのステージを通ると考えられる。ステージをひとつでも先に進むには、その人が今どのステージにいるかを把握し、それぞれのステージに合わせた働きかけが必要になる。

これまで培われてきた、食習慣、運動、喫煙などのライフスタイルを、望ましいものに変えていくことを行動変容という。

高齢化率

65歳以上人口が総人口に占める割合。

呼吸器系の疾患

代表的な疾患として、肺がん、慢性閉塞性肺疾患がある。

骨粗鬆症

骨の強さ（骨強度）は、骨の量（骨量、骨密度）と骨の質（骨質）で決まる。骨粗鬆症は、骨の量が減少したり、骨の質が劣化（質が悪くなる）して骨が弱くなり、骨折しやすくなった病気のこと。

健康な骨の内部には、たくさんの棒状の骨（骨梁（こつりょう））が縦横に連結し、強度を保っている。骨粗しょう症になるとこれらの棒状の骨が細くなったり切れたり、太さが変わらなくても弱くなったりして、もろくスカスカの状態になり、折れやすくなる。

GOT（ALT）（ジ-オーティー又はエ-ルティー）

細胞内でつくられる酵素で、肝細胞もしくは心臓や腎臓などの臓器に多く存在している。体内でのアミノ酸代謝やエネルギー代謝の過程で重要な働きをする。

ジェネリック医薬品（後発医薬品）

先発医薬品と同一の有効成分を同一量含み、同一経路から投与する製剤で、効能・効果、用法・用量が原則的に同一であり、先発医薬品と同等の臨床効果・作用が得られる医薬品をいう。

ジェネリック医薬品差額通知

平成24年度から半田市国民健康保険被保険者のうち医療機関や薬局から薬をもらっている方で、ジェネリック医薬品に切り替えた場合の自己負担額の削減額が大きい方を対象に通知するもの。この通知は、被保険者の医療費の自己負担を軽減するとともに、医療費の適正化を図ることを目的として、現在使用している新薬（先発医薬品）をジェネリック医薬品（後発医薬品）に切り替えた場合の差額をお知らせする。

ジェネリック医薬品（後発医薬品）数量シェア

「後発医薬品のさらなる使用促進のためのロードマップ」（厚生労働省平成25年4月5日）で定義された、後発医薬品の数量シェア（置換え率）のことであり、後発医薬品の普及率を表す指標である。

国際的な比較が容易にできることを踏まえ、後発医薬品に置き換えられる先発医薬品及び後発医薬品をベースとした数量シェアとする。

※後発医薬品の数量シェア（置換え率）＝〔後発医薬品の数量〕

÷（〔後発医薬品のある先発医薬品の数量〕＋〔後発医薬品の数量〕）

※「数量」とは、薬価基準告示上の規格単位毎に数えた数量をいう。

歯科出血

歯肉炎や歯周病など歯ぐきの病気で、歯ぐきが炎症がおき、歯茎から出血を起こしている。

事業主健診

労働安全衛生法に基づく健診。

脂質異常症

血液中の脂肪分（コレステロールや中性脂肪）が多すぎる、あるいは少なすぎる状態である。

歯周病

歯を支える歯ぐき（歯肉）や骨（歯槽骨）が壊されていく病気。

歯周ポケット

歯と歯茎の間が、プラークの最近により炎症をおこし深くなった溝のこと。

疾病分類表

わが国の疾病罹患の状況を概括できるように推定患者数を基準にして、大分類、中分類及び小分類がそれぞれ独立し、分類表としての形式を統一したもの。

VI 用語集（50音順）

社会保険の適用拡大

平成28年10月から、週30時間以上働く方に加え、従業員501人以上の会社で週20時間以上働く方などにも厚生年金保険・健康保険（社会保険）の加入対象が広がった。平成29年4月からは、従業員500人以下の会社で働く方も、労使で合意すれば社会保険に加入できるようになった。さらに、令和4年10月からは従業員100人超、令和6年からは50人超と、段階的に適用拡大されることになっている。

収縮期血圧

血圧を測定すると2つの値が記録される。いわゆる「上」は収縮期血圧（最大血圧）、「下」は拡張期血圧（最小血圧）という。心臓は、収縮と拡張を繰り返すポンプのような働きをすることで、血液を送り出している。心臓が収縮したときには、血液が大動脈に送り出され、血管に高い圧力がかかる。これが収縮期血圧（最大血圧）である。高血圧は「沈黙の殺人者」とも呼ばれ、自覚症状が不明確な状態で進行し、脳卒中や心臓病など命にかかわる病気を引き起こす。

柔整

柔道整復師（整骨院・接骨院）による施術のこと。柔道整復師による施術は、外部からの要因による打撲・捻挫・挫傷の場合、保険は適用されるが、日常生活からくる疲れや単なる肩こり、打撲や捻挫が治った後のマッサージ等の場合や、医療機関で同じ傷病の治療を受け、医師の指示がない場合等は、保険は適用されない。

循環器系の疾患

代表的な疾患として、高血圧症、不整脈、狭心症がある。

新生物

正常な組織細胞は、必要以上に分化分裂を行わないように調節を受けているが、そこからはずれ自立的に増殖を始めるようになった組織。良性のものと悪性のものに分けられる。

ストラクチャー

保健事業を実施するための仕組みや体制の評価のこと。職員の体制や予算、施設・設備の状況、他機関との連携体制、社会資源の活用など。

生活習慣病

高血圧症、糖尿病、脂質異常症、脳血管疾患、心臓病、肥満等で生活習慣が発症原因に深く関与していると考えられている疾患の総称。食習慣、運動習慣、休養、喫煙、飲酒等の生活習慣がその発症・進行に関与する疾患のこと。

地域包括ケア（地域包括ケアシステム）

高齢者が住みなれた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、医療、介護、介護予防、住まい、生活支援が一体的に提供される仕組みのこと。

地域包括ケアシステム推進協議会

地域包括ケアシステムの充実に向け、医師会、歯科医師会、薬剤師会、高齢者を支える関係機関の方をメンバーとして設立している協議会。

知多半島医療圏

医療圏とは、地域の実情に応じた医療を提供する体制を確保するために、都道府県が設定する地域単位。日常生活に密着した保健医療を提供する一次医療圏（基本的に市町村単位）、健康増進・疾病予防から入院治療まで一般的な保健医療を提供する二次医療圏（複数の市町村）、先進的な技術を必要とする特殊な医療に対応する三次医療圏（基本的に都道府県単位）となっている。知多半島医療圏は、愛知県内12に分けられている二次医療圏の一つであり、半田市、常滑市、東海市、大府市、知多市、阿久比町、東浦町、南知多町、美浜町、武豊町の知多半島5市5町で構成されている。

中性脂肪

人間の体を動かすエネルギー源となる物質である。中性脂肪の役割としては、内臓を守り、また体温を一定に保つ働きがある。中性脂肪値が高いと、動脈硬化や脳卒中の遠因となるLDL（低比重リポたんぱく）コレステロールを増やしてしまい、また、善玉コレステロールであるHDL（高比重リポたんぱく）コレステロールを減らしてしまうことにつながる。

調剤料

調剤料は調剤報酬点数により定められており、「薬を調剤する技術（手間）」に対して算定され、薬の種類や処方日数によって異なる。また錠剤を半分に分けるとか、粉薬や軟こうを混ぜ合わせる、飲み込みが困難な人のために錠剤を粉状にするなど特別な技術が必要な場合、さらに点数が加算される。

重複受診

同じ疾患で複数の医療機関を受診していること。

重複服薬

同じ薬剤を複数の医療機関で処方されていること。

VI 用語集（50音順）

データヘルス

各医療保険者が保有する電子レセプト（診療報酬明細書）などから得られるデータの分析に基づいて実施する効率のよい保健事業をデータヘルスと呼ぶ。データとヘルスをつないだ造語。

糖尿病性腎症

糖尿病に特異な毛細血管病変の現れとして、血液をろ過し尿を作る器官である糸球体に硬化性の病変を生じるもの。糖尿病性腎症がひとたび発症すると、多くの場合は進行性に増悪して、数年のうちに腎不全に陥り尿毒症となる。したがって、糖尿病を良好なコントロール状態に保って、腎症の発症を予防することが大切になる。

糖尿病性腎症重症化予防プログラム

厚生労働省により、地方自治体と医療機関の間で連携を行い、糖尿病の重症化の予防と人工透析の導入患者数の減少につなげることを目的とし、「明確な対象者の抽出」「都道府県の糖尿病対策推進会議との連携」「かかりつけ医との連携」「専門職による保健指導の実施」などを重視して、策定された個別プログラムのこと。

動脈硬化

心臓から全身に血液を送り込む役割を担う動脈内に、さまざまな物質が沈着して血管が狭くなり、血液の流れが滞る状態。「高血圧」「脂質異常症」「糖尿病」「喫煙」「肥満」「ストレス」などを避け、食事、運動などに気をつければ、予防でき、進行を食い止めることも可能。

特定健診（特定健康診査）

平成20年4月から開始された、医療保険者が40歳～74歳の加入者を対象として実施する、メタボリックシンドロームに着目した検査項目による健康診査のこと。

特定保健指導

特定健診の結果により生活習慣病の発症リスクが高く、生活改善により生活習慣病の予防効果が期待できる人に対して行う保健指導のこと。特定保健指導対象者の選定方法により「動機付け支援」「積極的支援」に該当した人に対し実施される。

動機付け支援 面接またはグループ支援を原則1回行い、対象者が自らの生活習慣を振り返り行動目標を立て行動に移し、その生活が継続できることを目指した支援。初回面接から3か月経過後に面接又は通信等（電話・Eメール・FAX・手紙等）を利用して評価を行う。

積極的支援 動機付け支援に加え、3か月以上の定期的・継続的な支援（面接又は電話・Eメール・FAX・手紙等を利用）を行い、対象者が自らの生活習慣を振り返り行動目標を立て行動に移し、その生活が継続できることを目指した支援。初回面接から3か月経過後に面接又は通信等（電話・Eメール・FAX・手紙等）を利用して評価を行う。

特定保健指導初回面接分割実施

平成30年度から特定健診当日に健診結果がそろわなくても、腹囲・体重、血圧、質問票等の結果から特定保健指導対象者と見込まれる者に対して初回面接1回目を分割して実施すること。

特定保健指導減少率

特定保健指導の評価指標のひとつで以下の式で計算される。
(昨年度の特定保健指導の対象者数のうち、今年度の特定保健指導の対象でなくなった人の数÷昨年度の特定保健指導の対象者数)×100

特定保健指導実施率

特定保健指導対象者が3か月後の最終評価まで利用した割合。

特定保健指導利用率

特定保健指導対象者が初回面接を利用した割合。

内分泌栄養及び代謝疾患

代表的な疾患として、糖尿病、糖尿病網膜症、脂質異常症、痛風・高尿酸血症がある。

ナッジ理論

ナッジ理論の「ナッジ (nudge)」とは、英語で「相手の注意を引くために、肘でそっと突く」ことを意味する。文章の文面や表示方法等を工夫することで、心理に働きかけ、行動を行動科学的に変えていくこと。

VI 用語集（50音順）

尿酸

からだの細胞は常に新しく生まれてくる一方で死んでいくものもあり、この活動を代謝という。代謝の結果としてできる燃えかすの一つが尿酸と呼ばれる物質で、約70%は尿の一部となって排泄される。ところが、腎臓の機能に障がいが起こって尿酸が正しく排泄されなかったり、何らかの原因で尿酸がつくられすぎたりすると、たまった尿酸が異常を引き起こす。その代表が痛風である。

脳梗塞

脳を栄養する動脈の血行不良により、酸素や栄養を受けている神経細胞が死ぬことでさまざまな症状をきたす病気。

脳内出血

脳の中を走行する細い血管（動脈）が破れて血液が漏れ出る病気。血管から漏れ出た血液は血の塊を形成し、脳にダメージが加わることで手足の麻痺やしびれ、言語障害などさまざまな症状を引き起こす。

ハイリスクアプローチ

疾患を発生しやすい高い危険度を持った方を対象に絞り込んで、その危険度を下げないように働きかけをして疾患を予防する方法。

ハイリスク群

過去の健診結果等から、心疾患・脳血管疾患・糖尿病などの重大疾患にかかる危険性の高い方の集団。

半田市国保運営協議会

国民健康保険事業の運営に関する重要事項を審議するため、半田市に設置され、市長の諮問に応じるとともに、諮問事項に関して意見を述べる事ができる市長の附属機関。議会以外の場において住民の各分野の各代表者に関与していただき、それぞれの立場の利害を調整して事業運営を円滑に進めることを目的としている。

半田市総合計画

将来の都市像を明らかにし、その実現のために長期的展望に立った、総合的かつ計画的な行財政運営を図るための「まちづくりの指針」となる最上位の計画である。各種の行政施策は、この総合計画をもとに進められている。

BMI（ビ-エムアイ）

Body Mass Index の略。(体重 kg)/(身長 m)²で算出する。人の肥満度を表す体格指数で、BMI の計算式は世界共通だが、肥満の判定基準は国により異なる。

【日本肥満学会の肥満基準値（2000年）】

状態	低体重 (やせ型)	普通体重	肥満 (1度)	肥満 (2度)	肥満 (3度)	肥満 (4度)
指標	18.5未満	18.5以上 25未満	25以上30 未満	30以上35 未満	35以上40 未満	40以上

PDCAサイクル（ピー-ディー-シー-イー）

業務プロセスの管理手法の一つで、計画（plan）→実行（do）→評価（check）→改善（action）という4段階の活動を繰り返し行うことで、継続的にプロセスを改善していく手法。

被保険者

健康保険に加入している人のことで、国保被保険者は、国保の加入者のことをいう。

肥満群・非肥満群

腹囲が男性85cm以上、女性90cm以上またはBMI25kg/m²の方の集団を肥満群という。それ以外を非肥満群という。

標準化死亡比（SMR）

年齢構成が異なる集団間（例えば半田市と愛知県）の死亡傾向を比較する指標。基準死亡率（人口10万対の死亡率）を対象地域に当てはめた場合に、計算により求められる期待される死亡数と実際に観察された死亡数を比較するものである。愛知県の平均を100とし、標準化死亡比が100以上の場合には愛知県の平均より死亡率が高いと判断され、100以下の場合には死亡率が低いと判断される。

ピロリ菌（ヘリコバクターピロリ感染症）

人などの胃に生息するらせん型の細菌のこと。慢性胃炎、胃潰瘍や十二指腸潰瘍のみならず、胃がんなどの発生につながる事が報告されている。

ピロリ菌検査

ピロリ菌に感染しているかを調べる検査。

頻回受診

医療機関の受診回数が多いこと。

腹囲

へその高さに巻尺を水平に巻いて計測したお腹周りの値。内臓脂肪の蓄積をチェックする。

服薬

薬を服用すること。

VI 用語集（50音順）

フレイル

加齢とともに心身の活力（例えば筋力や認知機能等）が低下し、生活機能障がい、要介護状態、死亡などの危険性が高くなった状態のことを指すが、早く介入すれば元に戻る可能性がある。高齢者のフレイルは、生活の質を落とすだけでなく、さまざまな合併症も引き起こす危険がある。

フレイルの基準には、さまざまなものがあるがFriedが提唱したものが採用されていることが多い。Friedの基準には5項目あり、3項目以上該当するとフレイル、1または2項目だけの場合にはフレイルの前段階であるプレフレイルと判断する。

【フレイルの基準】

- ①体重減少：意図しない年間4.5kg又は5%以上の体重減少
- ②疲れやすい：何をしても面倒だと週に3-4日以上感じる
- ③歩行速度の低下
- ④握力の低下
- ⑤身体活動量の低下

プロセス

事業の目的や目標の達成に向けた過程（手順）や活動状況の評価のこと。情報収集やアセスメント、問題の分析、目標の設定、指導方法、保健指導実施者の状況、記録状況、対象者の満足度など。

平均自立期間

平均自立期間は、あと何年自立した生活が期待できるかを示したもの。KDBでは介護受給者台帳における「要介護2以上」を「不健康」と定義して、毎年度算出している。

ベイズ推定値

ベイズ推定値は、市町村等の標準化死亡比や合計特殊出生率の算出において、地域間比較や経年比較に耐えうるより安定性の高い指標を求めため、ベイズ統計学の手法を用いることにより、出現数の少なさに起因する偶然変動の影響を減少させた推定値である。

ベイズ推定値では、市町村において出生数や死亡数が0の場合であっても、潜在的な発生率を示す値として数値が表章されており、地域間比較や経年比較に利用できる。

ヘマトクリット

血液全体に対する赤血球の割合で、血液の濃度を表す値。ヘマトクリット値検査ではこの割合を調べることで、主に「貧血」の有無が分かる。

法定報告

特定健診等の実績を国に報告するもので、対象者は特定健診等の実施年度中に40～74歳になる方で、当該年度の1年間を通じて半田市国民健康保険に加入していることが条件となる。

保険者

健康保険事業を運営する実施主体のこと。半田市国民健康保険の場合は、半田市が保険者として運営していたが、平成30年度からは制度改正により、愛知県も保険者となった。

ポピュレーションアプローチ

集団全体に対して働きかけることにより、集団全体の健康障がいのリスクを少しずつ軽減させ、良い方向にシフトさせること。環境の整備。

慢性腎臓病（CKD）

慢性腎臓病（Chronic kidney disease：CKD）とは慢性に経過するすべての腎臓病を指す。腎臓の働き（eGFR）が健康な人の60%以下に低下する（eGFRが60ml/分/1.73㎡未満）か、あるいはタンパク尿が出るといった腎臓の異常が続く状態をいう。患者は全国で1,330万人（20歳以上の成人の8人に1人）いると考えられ、新たな国民病ともいわれている。生活習慣病やメタボリックシンドロームとの関連も深く、誰もがかかる可能性のある病気である。

メタボ

メタボリックシンドロームの略。

日本内科学会関連8学会がメタボリックシンドロームの疾患概要と診断基準を示した。

メタボリックシンドロームは、内臓脂肪の蓄積（内臓脂肪型肥満）を共通要因として、高血圧、高血糖、脂質異常等を引き起こした状態で、その複合的な結果として、血管の損傷や動脈硬化が生じ、症状が重症化した場合には、虚血性心疾患、脳血管疾患等の発症リスクが高くなる。

メタボリックシンドローム該当者及び予備群の減少率

保険者が数値目標として定める必要はないが、特定健診及び特定保健指導の成果に関する指標として活用を推奨されている。第1期計画では、特定保健指導対象者の減少率、第2期計画では、メタボリックシンドロームの該当者及び予備群の減少率としていたものが、第3期計画以降、特定保健指導対象者の減少率として再度見直された。

VI 用語集（50音順）

有所見者

健診結果の数値が基準値より高いまたは低い値等の異常があった場合をいう。つまり「要治療」、「要精密検査」、「要経過観察」や「要通院」などと記載された方のこと。

リスク

危険のことで、病気に関しては重症化する要因の意味。

レセプト

被保険者が受けた診療について、医療機関が保険者に請求する明細書のこと。

ロコモティブシンドローム（略称：ロコモ、和名：運動器症候群）

運動器の障がいのために移動機能の低下をきたした状態。進行すると介護が必要になるリスクが高くなる。筋肉、骨、関節、軟骨、椎間板といった運動器のいずれか、あるいは複数に障がいが起こり、「立つ」「歩く」といった機能が低下している状態であり、進行すると日常生活にも支障が生じる。